

次期総合戦略策定に係る第2回綾部市創生有識者会議 議事概要

日 時：令和7年1月14日（火）13時30分～15時30分

場 所：綾部市役所本庁舎3階第一委員会室

出席委員：有年和廣、泉朝子、一瀬健太、梅原寿夫、四方憲生、白波瀬聡美、永井護、
林多嘉子、原田智、平山淳、真下加奈子、増山佳苗、山中史香、岩本正信

欠席委員：坂根義仁、滋野浩毅、高倉正明、前本和輝、宮本恵子、山崎栄市

綾 部 市：上原市長公室長、立藤市民環境部長、四方福祉部長、吉田健康こども部長、
大島農林商工部長、朝子定住交流部長、四方建設部長、塩見消防長、
小林上下水道部長、井上議会事務局長、大槻教育部長、四方財務担当部長、
上田行政デジタル推進課長

事 務 局：志賀企画総務部長、高橋企画総務部理事、鎌部企画政策課長、
上田企画政策課担当長、新川企画政策課主事

記 者：1人

傍 聴：1人

配布資料：【資料1】第6次綾部市総合計画後期基本計画策定に向けたアンケート調査結果
報告書

【資料2】綾部市創生総合戦略（案）

■報告事項：意識調査結果報告について

座 長

市民と中学生及び市内企業従業員（市外在住）にそれぞれの立場からの意識調査の協力をお願いした。回答の半数は60歳以上となっており、幅広い層からのご意見を伺うべく、中学生（＝若者）からの意見もお聞きしたところ。綾部市の印象として「住み慣れていて愛着がある」「自然が豊かである」と評価いただく一方で、交通の便やインフラ整備を求めるとご意見をいただいた。こうした課題を整理し、次期総合計画の策定に生かしてまいりたい。

委 員

重要度と満足度のギャップが大きい施策として「医療体制の充実」「公共交通の充実」が挙げられている。実例を申し上げると、他市では公共交通における自動運転の実証実験が広がっており、内容もレベル4（特定の環境下で完全に自動運転）による、公共交通バスへの導入に係る実証実験が増えてきている。また、「医療体制の充実」については、かかりつけ医に画面越しに診察を受け、問診等はオンラインで可能となる遠隔診療の取り組みも進んでいる。こうした技術進歩によるシステムの実装を、市としていかに進めていくのか、今後10年間は重要な期間になると思う。

事務局

遠隔診療については、本市でも市立病院において検討が進められており、そうした医療分野におけるデジタル技術の導入について積極的に支援していきたいと考えている。

委 員

今後、子育て環境の充実が重要であると考えている。周囲の保護者から、同じ兄弟姉妹で

通園する園が異なっている事例があると聞くと、親としては兄弟姉妹で同じ園に入れるように配慮してほしいという思いは当然ある。また、「活気あるまちにしてほしい」という意見があったが、昨年の夏に実施した「あやバル 2024」と同様のイベントを当団体で今年の夏頃に計画している。やる気のある若者がイベントを企画する際に、一定の条件を満たしていれば補助できるような仕組みがあれば良い。

担当部長

全国で待機児童が問題になる中で、本市では、待機児童は発生していない。利便性の観点から、一定の園に通園の希望が集中する傾向もあり、まずは待機児童を発生させないように調整を行っている。今後も、保護者が働きやすく、子どもが通いやすい園を目指してまいりたい。

担当部長

イベントへの支援について、「あやべにぎわいづくり補助金」をご活用いただいているところ。来年度は市制施行 75 周年でもあり、さらにこのような補助制度を活用いただけるよう周知に努めてまいりたい。

■協議事項：次期総合戦略素案について

委 員

前回の会議でも申し上げたが、教育環境づくりについて、幼年期と高校生とでは子育て支援の方策も異なる。幼年期への支援が手厚いように思うが、中学生・高校生の子どもを持つ世帯への支援が薄いと感じた。本市は京都市から近く、講師の招へい等が可能であると思うので、高校生がよりよく学べる環境の充実をお願いしたい。高校生にとって魅力あるまちづくりを進める上で移動手段は重要であり、また綾部駅周辺にカフェなどの施設があれば、高校生にとってまちの魅力が増すのではないかな。

委 員

若者への支援について、当団体でも若者を巻き込んだ活動を行っていきたいと思っている。綾部駅周辺のにぎわいづくりについて、駅南広場のスクリーンをパブリックビューイングとして利用できないか。面白い場があれば若者は集まってくる。行政と協力し、イベントを企画できれば良いと思う。

委 員

教育環境について、具体的にどういった分野・取組に課題があるのかが、アンケート結果だけでは分かりにくいと思っており、明確に課題が抽出できればよりの確な支援ができるのではないかな。まちに活気が出るよう商業施設の立地は必要だが、収益性が見込めなければ民間事業者は動いてくれない。既存のイベントをさらに盛り上げ、市民の楽しむ姿を発信することで、訪れたいまちにするのが良いのではないかなと思う。

委 員

自動運転の実証実験等は国が主導して様々に行われており、市としてもいち早く、こうした取組に手を挙げて参加していくことで、市のイメージアップにつながると思う。

委 員

意識調査において、対外的のみならず対内的にも PR 不足という意見を受けて、今後対応

を検討する必要があると感じた。また、ものづくりのまちというイメージが強いという結果だが、親子を対象に企業を見てもらう機会として、オープンファクトリー「大人の社会見学」という取組を実施したところ、予想以上に好評だった。市ならではの「ものづくり」という着眼点は今後も求められていると思う。また、スポーツ大会や合宿の誘致の推進について、宿泊可能な大規模施設がないことが本市の課題となっている。

委 員

意識調査結果からも、子育てしやすいまちづくりが強く求められている。子育て支援センターで作成する行事カレンダーでは、市内各所で子育て支援に係る取組をされているようだが、住民にとって、オープンな居場所が求められており、拠点毎に実施するだけではなく、訪れやすい仕組みづくりの強化も今後検討が必要。

委 員

綾部市は移住者が多いと感じており、農業に興味を持ち新規就農に至った方も多い。京野菜のニーズは高いものの生産者が不足しているため、農家の販路拡大などの取組を行政と手を取り合いながら進める必要があると思う。

委 員

「二十歳の集い」の取材時に参加者から、八田幼稚園の子どもや中筋小学校の生徒を見て、地元の思い出を振り返ることができて良かったという声があり、参加者に向けて市の PR ができたらと感じた。「二十歳の集い」が U ターンのきっかけづくりの場となるよう、企業の PR ブースの設置なども検討しても良いのではないかな。同級生に会える貴重な機会でもあり、「二十歳の集い」を楽しみに思う子も多いので、記念撮影ブースを設置するのも面白いと思う。また、若者の意見が行政に反映できるような仕組みづくりも検討いただきたい。

委 員

綾部市は、「グンゼ発祥の地」として知名度が高い。他府県からも、ものづくりのまちとしての認識がやはり強い。大人の工場見学といった企画は面白く、ものづくりのまちの強みを生かせるのではないかな。また、歴史のある老舗企業への支援、市内企業数の維持、雇用の創出を通じて綾部を盛り上げることは重要だと思う。また、後継者のいない企業の事業承継を支援できる仕組みがあればありがたい。

委 員

横断的戦略・重点検討事項としてデジタル化が挙げられていることは、非常に良いことだと思う。計画本文に RPA や生成 AI の活用などの具体的な記載がないが、現在の活用状況を教えてほしい。

担当部長

令和 4 年度から RPA を導入し、定型業務の効率化を段階的に進め、職員の負担軽減に取り組んでいるところ。また、生成 AI は正式な導入に至っていないが、試験的な検証を行っている。ただし、課題として、入力したデータの学習機能による個人情報の流出への懸念があり、一定のセキュリティ環境下での実施を検討している。さらに、誤った情報を提示するリスク等があるため、市の例規等、職員向けの情報システムや文書の自動作成、データ分析等、活用に向けて検討を図ってまいりたい。

委 員

RPA は非常に手間とスキルが求められるため、手間をかけずに効果をあげていただきたい。生成 AI は、かなりリスクが伴うため、使い方のノウハウは全国的に自治体で検証が進んでいる。こういったデジタル技術の活用による効率的な行政運営をお願いしたいが、導入自体が目的とならないように留意し、市としての到達点を見定めてほしい。

委 員

幼児期の段階から男女共同参画の啓発が必要であり、学校への子ども向け冊子の送付などにより、意識の向上が一定浸透してきていると感じている。今後も更なる取組強化をお願いしたい。また、公共交通機関が不便な地区もあると聞いており課題と思う。さらに、ジェンダー平等について、自治会活動への女性参加者の少なさが目立っている。合わせて、デジタル技術の活用については、高齢者も活用しやすい支援をお願いしたい。来年度は市制施行 75 周年とのことで、「あやパーク」に期待している。今後、楽しいイベントができたらと思う。

委 員

KPI の「定住希望者登録者数」について、近年は社会動態増となっており、移住・定住の取組成果が出ていると思う。ただし、定住希望登録者数について、令和 4 年度の実績から 1,000 人ほど登録者数が減少しているように思うが、理由はどうか。

担当部長

定住希望者について情報等を一定整理し、実情に合った KPI に設定した。

委 員

意識調査結果をみると、子育て、雇用、にぎわいのまちづくりに関する意見があったように思える。今後、就職の WEB サイトを導入されるということだが、企業からは就職フェアにみられるように、対面で実施することに意味があると聞く。先ほど、「二十歳の集い」の話もあったが、企業と若者をつなげる場は効果的だと思う。また、まちのにぎわいや活性化については、先ほど意見が出たパブリックビューイングが一つの方法と思った。

委 員

当団体も高齢化が進んでいる。外出をしたくても、移動手段がないために会議やイベント等に参加できない一人暮らしの人がいる。公共交通の充実はとても重要。また、ジェンダー平等の考えが浸透し、市が住みやすいまちに近づいていることは良いことだと思っている。

座 長

様々なご意見をいただき感謝申し上げます。この後のパブリックコメント期間等を通して、更なるご意見があればお願いしたい。また、今後も毎年開催する有識者会議において、ご提言いただければと思う。引き続きよろしくお願いしたい。